

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-161	15-005	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名 (原題/訳)		
<p>Association between driving under the influence of alcohol or drug, speeding and seatbelt use among fatally injured car drivers in Norway.</p> <p>飲酒や薬物影響下での運転と、運転速度およびシートベルト着用の関係(ノルウェイの交通死亡事故を用いた調査)</p>		
執筆者		
Bogstrand ST, Larsson M, Holtan A, Staff T, Vindenes V, Gjerde H.		
掲載誌		
Accid Anal Prev. 2015 May;78:14-9. doi: 10.1016/j.aap.2014.12.025.		
キーワード		PMID
アルコール、運転、薬物、交通死亡事故、シートベルト、スピード違反		25725424
要 旨		
<p>目的： 交通事故で死亡した運転手の情報から、アルコール・薬物の運転手への影響と運転速度・シートベルト使用の関係を調べる。</p> <p>方法： ノルウェイで起こった交通事故死亡について、ノルウェイ公共道路管理庁により組織された多学問領域にわたる調査チームが分析を行った。2005年から2010年の間、608名の車運転手が交通事故で死亡し、そのうち372名から血液データを収集、アルコールと15種類の向精神薬物成分についてノルウェイ衛生研究所で検査が行われた。ノルウェイ公共道路管理庁の事故データとアルコール・向精神薬物データを結合させ、369件の死亡事故を解析した。アルコール濃度が0.2g/L以上または薬物の血中濃度が法定限度を超えたのは146名だった。このうち、127名は血中アルコール濃度が0.5g/L以上、または認可基準(法定限度より高く設定されている)を超える薬物濃度、またはアンフェタミンが200µg/Lを超えており、これらを解析対象とした。</p> <p>結果： アルコールや薬物を不正使用しつつ、死亡事故を起こしたドライバーの64.6%はシートベルトをせず、71.7%はスピード違反をしていた。一方、酒に酔っていないドライバーではシートベルトをしなかったのは24.2%、スピード違反をしたのは33.2%だった。アルコールとアンフェタミンの不正使用はシートベルト不着用およびスピード違反と有意に関連していた。</p> <p>結論： スピード違反は交通事故の主な原因の一つであり、シートベルト不着用が加わると死亡事故の主な原因となる。アルコールや薬物使用が危険行為や安全軽視の原因となり、スピード違反およびシートベルト不着用につながった可能性がある。</p>		